

—**関西電力よ、**  
古平・余市から出でよ！—

改定版

# 風の 新の

## 第十七章

まほろば主人  
宮下周平



### 一、三省庁に、「要望書」 提出

12月6日、上京。

霞が関の三省庁に向かった。

「農水省(林野庁)」「環境省」「経済産業省(資源エネルギー庁)」。仁木・余市両町の「風車を考える会」と「全国再エネ問題連絡会」の共同代表と共に訪ねた。

かくも道と市町村を飛び越えてのこの場面は、本来有り得ない好機だった。

林野庁と環境省の後、国の最終許可を下す最後の砦。その経産省・資源エネルギー庁の「再生可能エネルギー推進室」伊藤隆庸室長との面談。仁木・余市町の17,916筆の「反対署名」と「要望書」を直接提出。関電のこと、仁木のこと、地方での細かい話にも、室長は耳を傾け、熱心にメモを取られる。逆にこちらが、その謙虚な対応に驚かされたほど。現場住民の声を直に聞かれる機会が少ないのかもしれない。

# 風力発電計画中止を

## 仁木余市 住民団体 国に要望書

【仁木】仁木、余市両町の住民団体は、関西電力が古早、余市両町にまたがる山林で計画する風力発電事業などを許可しないよう求め、要望書と一方7916筆の署名を国に提出した。提出したのは「仁木町の風力発電を考える会」と「余市の風力発電を考える会」。農林水産省、環境省、

経済産業省に6日付での計画地での保安林解除の禁止、規制の緩和が再提出の方針を示している仁木町南部での別の風力発電計画を含め許可しないことを要望した。

また、行きすぎた再生可能エネルギーの開発に警鐘を鳴らす全国再生エネルギー連絡会など、両町と一連に再生事業のための保安林解除の規制を求める約2万5000人の署名も併せて提出した。

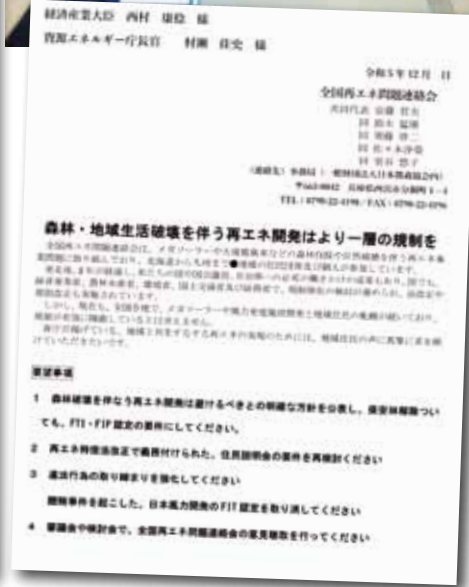
計画に関しては、関電が古早、余市、仁木の3町で16、17の両日、住民説明会を開催する。（伊藤圭三）

説明会の日時や開催場所は以下の通り。

仁木町 16日午前10時  
町民センター▽古早町 16日午後5時、複合施設かなー  
余市町 17日午後1時  
町中央公民館



資源エネルギー庁 再生可能エネルギー推進室にて



「全国再生エネルギー問題連絡会」からは、事業の為「保安林解除規制を求め」約25,500筆の署名と要望書を林野庁の長崎屋森林整備部長に、環境省・植田脱炭素推進審議官、経産省・エネルギー室長にも、各要望書を提出された。

「国に直訴！」12月14日付けの道新に掲載。「全国再生エネルギー問題連絡会」の各大臣への要望書

これら一連の会見の場を提供して下さった、共同代表の室谷悠子弁護士と鈴木猛康山梨大学名誉教授はじめ連絡会の方々には、深く感謝申し上げます。当初、大阪関西電力本社に署名を渡したいと、会見を申し入れるも断られた。この時点で、関電は住民と向き合う姿勢がなかった。だが、その後の流れが、むしろ新たな展開を形成した結果だった。

## 二、仁木町長、初めて「反対表明」

12月21日の定例町議会。山内議員の一般質問「残る仁木南部地域への風車建設計画に対する意見」。佐藤町長が「好ましくない」「賛成しかねる」という、中立から一転、反対するという見解を初めて主張された。

遂に、この1年半の運動が、この一言によって、実を結ぶことになった。



一先ず、おめでとうございます。吉報。冬至の年替わりに相応しい。これで春には、正式に北海道知事宛に、この意見書を提出して頂



# 風力発電 地元の逆風やまず



## 関電 仁木説明会

### 「ゼロベース検討 信用できぬ」

後志地方の古平町などで風力発電所の建設を計画している関西電力は16日、住民を対象に説明会を開いた。地元などに反対の声が根強く、関電は計画を大幅に縮小する方針だ。計画地から外れた仁木町での説明会には多数の住民が詰めかけたが、関電側の説明に「信用できない」と厳しい声が続出した。



JR仁木駅前には風力発電所に反対するポスターが掲げられていた

仁木町の町民センターで午前10時から始まった説明会には約120人の町民が参加した。雪の降る中、事前に用意した100席を上回る住民たちが訪れ、風力発電所計画に対する関心の高さがうかがわれた。関電側は計画の概要を説明し、「地球温暖化は異常な気象をもたらす。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を減らすには再生可能エネルギーを増やす必要がある」と風力発電の意義を強調。その後、住民との質疑応答に移ったが、関電側は「住民のプライバシーに配慮する」と報道陣には非公開とした。関電は昨年5月、古平と

仁木、余市、共和の4町にまたがる約8500坪の事業想定区域に最大4基、最大出力約26万8800ワットの風力発電所をつくる計画を発表した。だが、想定区域内には保安林や手つかずの自然が残る山林が含まれ、日本自然保護協会などは事業の中止や抜本的な見直しを求めている。環境省も「国内で例が少ない大規模な事業」（環境相の意見書）として事業区域を絞り込み、地元の理解を得るよう求めている。慎重な対応を求める意見が強まる中、関電は11月21日、4町に広がっていた計画地を古平、余市の2町の約1400坪に絞り、最大出力約7万5600ワットの、風車の数も最大18基と当初の3分の1ほどに縮小する、と発表した。

ただ、関電は今回計画地から外れた仁木町の銀山地区で、別の風力発電事業ができないか可能性を探る方針だ。約3時間に及んだ16日の説明会でもこの点に質問が集まった。「銀山エリアにつくらないでほしい」という声も住民から出たが、関電は「ゼロベースで検討する」と答えるにとどまったという。住民有志でつくる「仁木町の風力発電を考える会」の穂積豊仁代表は「関電はまだあきらめていないのでは。表面的な回答ばかりで信用できない」と関電の姿勢を批判した。脱炭素社会に向け、関電は2050年に事業活動に伴うCO<sub>2</sub>の排出ゼロをめざし、40年までに500万ワットの再生可能エネルギーを新たに開発する目標を掲げている。そのため関電は営業エリアの関西圏以外でも再生可能エネルギーをつくる計画を進めており、道内では昨年5月、後志や夕張市などで計4カ所の風力発電の開発計画を発表。そのうち伊達市や千歳市などで検討してい

た事業は、区域内にある国立公園の景観を損ねるとの指摘を受けて最終的には断念に追い込まれている。後志地方の計画については住民説明会は16日夕方に古平町で行われ、17日には余市町でも開かれる。

(編集委員・堀電優材)

2023年(令和5年)12月17日(日曜日)

### 関電の風力計画 説明に不満の声

【仁木】関西電力は16日、計画中の風力発電事業(仮称「古平・余市・仁木」)に関する初の住民説明会を町民センターで開いた。約120人が参加。関電側は計画を縮小し、風車建設予定地から仁木町エリアを外すことを表明したが、参加者からは「地域が納得できるような真摯な態度



関電が主催した仁木町で開かれた風力発電の説明会

を求めている」との声を述べた。一方、仁木町南部を含むエリアで別の計画を検討し、再提出するとしていた。関電の穂積代表は従来計画を変更し、古平、余市両町にまたがる区域で最大出力7万5600ワットの発電所を開発するを説明。仁木、共和両町での風車建設は取りやめ、設置する風力発電機は「別の計画はいつ提出するのか」などの質問が出たが、具体的な回答は示されず、70代女性は「関電が都合のいい質問に答えただけ。全く納得できない」と不満をあらわにした。説明会は事業計画や環境影響評価方法書の内容を説明するために実施。この日は古平町でも開かれ、17日は余市町でも開かれる。(伊藤圭三)

き、関電には「国有・保安林解除中止」の宣言を待つばかりとなった。しかし、所期の目的、仁木町南部(銀山・長沢・尾根内)風車計画、「全面撤退」に至るまで安心はできない。

引き続き、この活動は、「古平・余市ウィンドファーム事業」更に、北後志全域の白紙撤回に向けて、一層拍車をかけて行くばかりです。



### 三、「ヒドイぞ、関西電……！」

それに先立つこと関西電力が、16日仁木・古平町、17日余市町と、「方法書縦覧」に伴い、付帯必行の説明会を、漸く本町役場で開催した。これまでの弛まぬ住民運動が功を奏してか、120名を越す参加者で、会場は異様な熱気に包まれた。

しかし、質疑応答では、一切マイクを持たせず、町民の声を、シャットアウトする強行策を取った関電。またもや、悪の謀略を張り巡らして来た。質問事項を、用紙に書かせ、それを打ち直したのか、前以って打ったのか、定かでない文章をスクリーンに映して解説。細大漏らさず取り上げたいという3時間の説明会は、重複内容で時間潰し。一方的に関電側の主張で押し切られた。

初めての参加者の反応も、「ヒドイぞ！ 俺の書いたもの出てないぞ!! お前ら、まくし立てるばっ



かりで、俺たちが言いたいこと、言わせないのか!!!」と、怒号と咆哮が飛び交った。

実際、私たち周囲の質問状は、全く抹殺された。それは、彼らにとって「不都合な真実」だからだ。

参加者の大方が、憤懣やるかたなき不満を口にして、会場を後にした。

却って策が裏目に出た。まさに、策士、策に溺れた。

この非民主的な説明会は、国内では初めてのケースではなからうか。

経産省にも、上申すべき違反行為だった。

関電はまた、プライバシー侵害に抵触するという理由で、質疑応答の際には、メディア・報道関係者を一切締め出した。しかし、実際のスクリーンには、個人名は一切出さなかった。かくも平然と虚言を言って退ける。

やはり、関電は、信頼のかけない疑惑の企業体質であることは、なおも変わらな

い。私たちは改めて、関電の裏側を、まざまざと見た思いだ。

### 四、関西電力へ、メツセージ

ここに1冊の本があります。

『関西電力反原発町長暗殺指令』  
証拠を残さない為、狂犬に体を食いちぎらせるといふ身の毛もよ

高浜町の闇はあまりに深い!

報道が過熱する一方の高浜原発をめぐる  
森山栄次元助役と関西電力の巨額贈収贈金事件。  
その報道の裏で、ある残忍な計画の存在が急浮上した。  
原発の特殊警備隊を誘い、  
猛犬を使った「反原発町長」殺害計画!  
実行を依頼されたグループが告白した闇の真実とは?



出来! 緊急重版! 話題騒然! テレビ、ネット等で

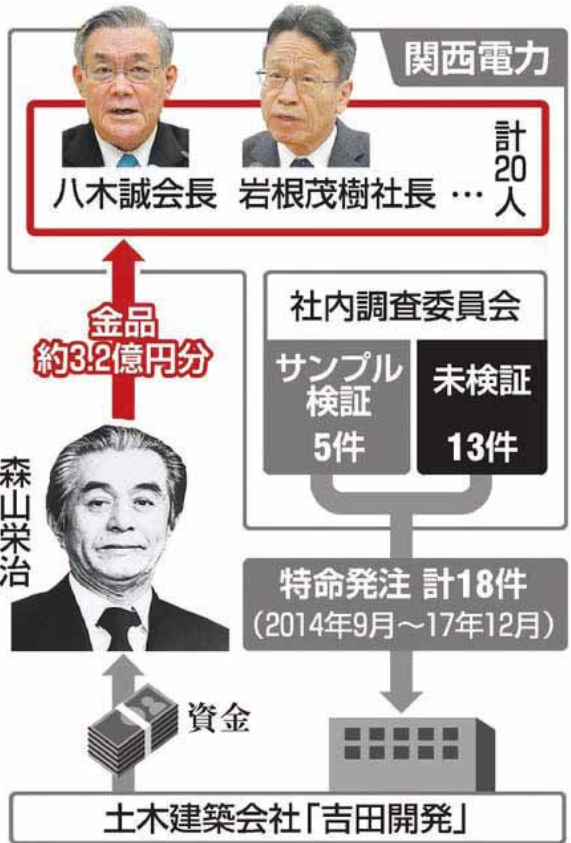
殺害を指示したとされる  
「闇の天皇」こと、元関西  
電力若狭支社副社長兼、  
高浜町の隣の仕切人エム  
と呼ばれた森山元助役の  
マインドマップとしての存在  
といった事実の何が  
起きていたのか?  
「そういう仕切人を関電は、  
うまく利用しますんや!」  
闇を駆け抜けた関電の闇  
隠されたマインドマップ

風の  
新の  
リ



関西電力高浜原発 画像出典：Wikipediayori

工事発注の流れと検証件数



画像出典：朝日新聞 <https://www.asahi.com/>



画像出典：朝日新聞 <https://www.asahi.com/>

関電が各社と順次カルテルを結んだとみられる



画像出典：日本経済新聞 <https://www.nikkei.com/>

だつ内容。話を半分聞いても、火のない所に煙は立たない。この時、高浜町の助役が3・2億円の賄賂を、関電の会長・社長以下10名の役員に配り、それが露呈して土下座した醜態を、国民の目に焼き付けたこの事件。

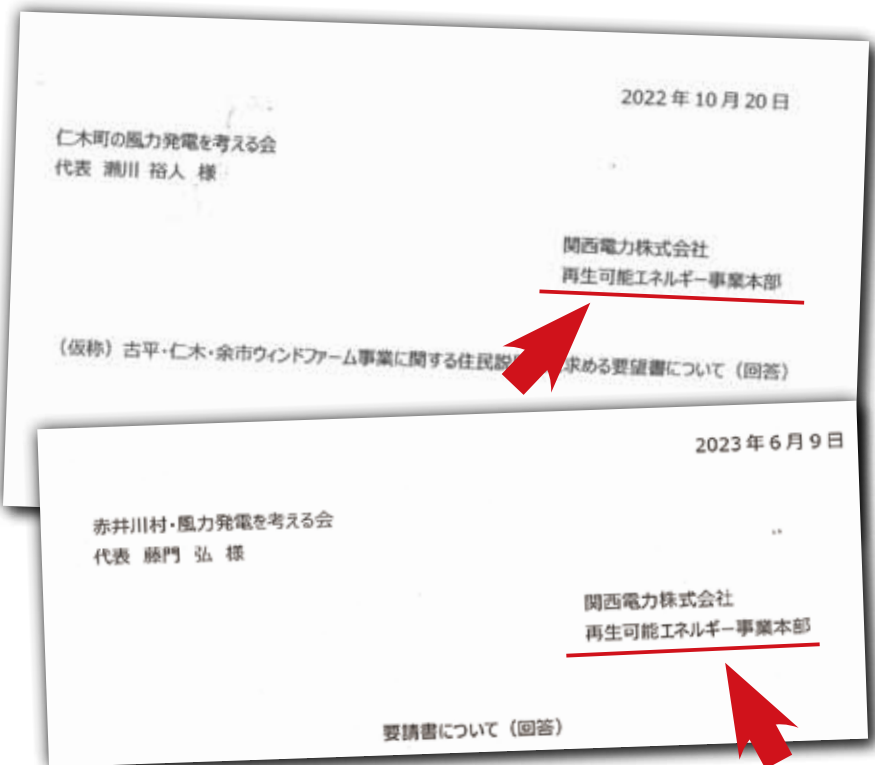
電力の三社へのカルテル騒ぎ。関電は、誘い出しておきながら、ヤバイと知って自分では中抜け。公取の独禁法で、三社は1000億円超の課徴金を支払う羽目に。当然、三社は関電を提訴。こういう非道を平気で行える。さらに、この1月には、競合他社の顧客情報を不正に閲覧して利用した。



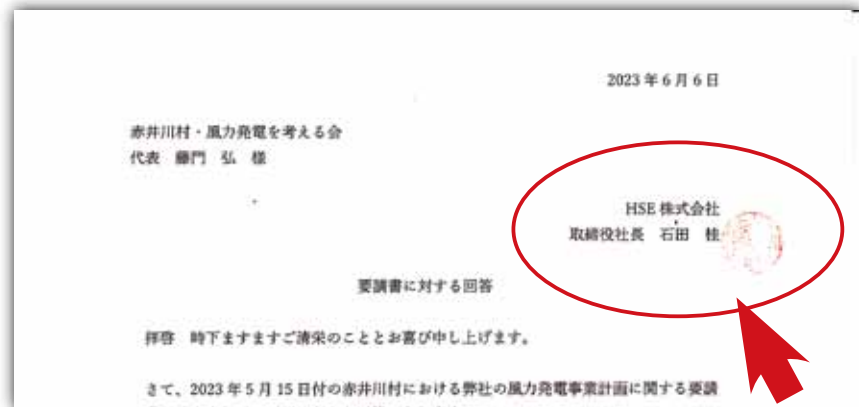


2014/7/28 朝日新聞トップ (田中、三木、福田、大平、鈴木、中曽根、竹下各首相)

2023/2/21 朝日新聞より



関電からの回答書には、担当者名も印鑑も連絡先もない



片や、HSEの書面には社長名と印が。下方には担当者名と連絡先が記されている。

「法令遵守を徹底する」と口先で再宣言するも、次々と毎月、新聞沙汰のない月はない。不祥事のオンパレード、「不正のデパート」と呼ばれている。

「まさか、まさか、まさか」の坂を上り詰めた一大企業は、倫理も道徳もなくなり捨てて、自然の風土と共に、企業風土も荒れ果てた。

昨年9月22日、当会から住民説明会の要望書。内容証明と配達証明までつけて郵送。10月20日に書面で返事。「農閑期に行く」との約束。12月10日の銀山説明会で、それを糺すと、関電は「誰も聞いてない」と惚けるのみ。

このように書面は、「再エネ事業本部」とだけ記して、責任者名も判も、連絡先も記していない。不誠実の極みで、結局は反故。

# 風 新の リ

か。 木の半分。何と  
いう姑息こそくな手段

同じく、9月27日、仁木商工会議所にて津司康雄会長に3時間の説明。全体説明会を求めると、11月頃の農閑期にとの約束。これも、同じく、反故。

またもや、今年6月9日、関電からの赤井川村の藤門代表への返信も同様に反故。

11月19日に村で行われたHSE日立の「配慮書」前の段階の説明会。6月6日付けで、石田桂社長直々の署名と捺印を以て会の要請に添えていた。これは誠実というより社会常識・企業責任と言うものである。

17日の余市町の説明会。同じ日の同じ時間帯、同じ公民館にて、町で初めての「開かれた議会」懇談会。之これを分かっていながら、ぶつけて開いた。後半に、参加議員一人。町民も少なく、参加者は仁木の半分。何と  
いう姑息こそくな手段だ。

このように、キレイごとの説明会。次々と御託ごたくを並べられても、心に届かない。嘘としか聞こえない。上辺うわべを繕つくろっても、メッキが剥がれるだけだ。

小さな約束を守れない企業が、大きな約束を守れるはずがない。

何を言っても、信じろと言うのが無理。一から十まで信じられない。



余市町議会主催  
第1回  
議会懇談会

懇談会テーマ  
「開かれた議会」  
あなたが望む  
議会の情報について

日時  
12月17日(日)  
14時～15時30分

会場  
余市町中央公民館  
3F 301・302 会議室

お問い合わせ  
議会事務局  
0135-21-2132

・参加申し込みは不要です。



誰が、これを信じようか。

今回、目の前の、当たり前前の約束を破って、守るべき当たり前とは何なのか。

これが、大企業の公正なのか。誠実な姿勢なのか。共感する仕事なのか。何に挑戦する

ここに、今回配られたパンフレット、関電の社是がある。そこに、「あたりまえ」を守り、創るとあり、公正×誠実×共感×挑戦を大切に、とうたっている。



関西電力グループ経営理念  
Purpose & Values

存在意義 Purpose  
大切にすべき価値観 Values

存在意義 「あたりまえ」を守り、創る  
Serving and Shaping the Vital Platform for a Sustainable Society

大切にすべき価値観 公正 × 誠実 × 共感 × 挑戦  
Fairness Integrity Inclusion Innovation

私たちは、安全を守り抜くことを前提に、「公正」「誠実」「共感」「挑戦」を大切に行動します  
With dedication to safety and security, we will act upon the values of Fairness, Integrity, Inclusion and Innovation

このように大義名分を、臆おそみなく世間に晒さらすこと自体、恥はずかしいと思わないのか！

のか。間違いなく利権に挑戦するのだろう。





大阪 中之島の関電本社

日本は、「恥を知る」という礼儀節義の国。京阪に居ながら、その心の伝統文化に愕（おどろ）るではないか。

12月6日、我々は上京して経産省「再生可能エネルギー推進室長」に、仁木・余市の反対署名17,916筆を提出。関電のこと、仁木のこと、事細かに伝え、それを聞いてくださった。経産省から何らかの勧告があっても良いはず。

あなた方は給料をもらっての仕事だが、町の人たちは、なげなしの金と時間を捨てて、町を守りたい、子孫を守りたいと、命を張って運動している。それが日本全体



https://www.kkday.com/

嵐山

https://www.jyuzujyunrei.com/



延暦寺

を守る事と信じて。

この北海道下り（くだ）りまで来（こ）ずとも、本社のある大阪の中之島の川沿いに100基でも1000基でも、気の済（す）むまで風車を建てたらいい。

あの京都嵐山の頂に建てて、新たな観光名所にすればいい。

比叡山の尾根に並べて、延暦寺と競（き）わせたらい。

人の汚（けが）れた手による千年の古都より、人の手に染まらぬ万年の天然林、そして名もなき自然林こそ国の宝、日本人の魂、私たちは抱いてそれを守る。



https://ameblo.jp/l-env/entry-12232041858.html

古平遠景。手前は歌棄（うたすつ）地区

「古平・余市」そして「仁木」の関電の計画が、全面撤退、白紙撤回するまで、何処までも、何時までも、反対して行く。阻止して行く。

**住民は、覚悟しています。**



さらにも、「2021」  
年にもKANSOテ

## 五、「KANSOテクノス」の驚くべき実態

11月22日から始まり一ヶ月で終了した、あの何百頁にもわたる厚い「方法書」縦覧。あれを役場の片隅で、立ち見で読んで、コピーも写真も禁止。どう読み込めるのか。HP公開というも、ネットの出来ないお年寄りはどうするのか。

その「方法書」第8章【環境影響評価書】を委託した事業者が「KANSOテクノス」。何と、**関西電力の子会社**だったのだ。既に、出来レースなのだ。

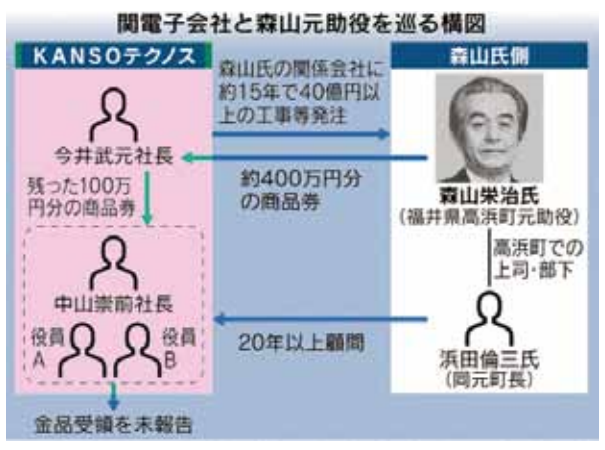
2020年7月22日の中日新聞の記事で、「KANSOテクノスは、あの福井県原発関連の金品授受の問題で不祥事が発覚。発覚した当時、福井県知事は定例会見で**「今回のようなことが出てくる限り、立地地域との信頼関係は築けない」**と厳しく批判。」

クノスは社員6名が必要な実務経験を積んでいないのに**施工管理技士の国家資格を不正に取得**していたと発表し、最終的に関西電力グループ全体で**197名**にまで及んだ。」

こんな賄賂も嘘も、罷り通っている調査会社の「方法書」を、信用できようか。いや、そもそも再エネ実現のために、大幅に**「再エネ特別措置法」を規制緩和**した



仁木役場に置かれた方法書縦覧



画像出典：日本経済新聞 <https://www.nikkei.com/> より

環境アセスメント自体、信用出来かねる。庶民素人が検証出来るような図表や数値を見て、さも真実紛いの調査報告に見えるが、都合の良い所だけを切り取っている。  
「日本自然保護協会」の役員が、いみじくも宗谷地域のアセスの使い回しを暴露したが、それが真相である。



浜田元高浜町長、環境総合テクノス顧問

## 六、各「産学官」に問う

「北海道環境審査委員会」は、道に依頼された学術審査の諮問機関で、「環境基本計画の策定」など環境保全に関する調査審議をする。主に道内の大学教授たちによって構成されている。中には、知人もおり、委員会に、これまで仁木の現状と反風車の訴えを表面で書き送ったが、全くの梨の礫（つぼみ）受け取りの返答さえなかった。この対応に、委員会の体質を見た思いがして、甚だ残念であった。

主要なメンバーの恩師は、「その席に汲々としてことなく、真理希求の学徒に恥じぬ公明正大にして清廉潔白なる調査研究を求めたい」と、コメントされていたのが印象深い。

所属	氏名	肩書
北海道立行政法人 北海道立総合研究機構	川原 一夫	理事長
北海道立総合研究機構	北山 隆夫	常務理事
北海道立総合研究機構	森田 重雄	常務理事
北海道立総合研究機構	高橋 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	田村 隆一	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	石川 隆夫	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事
北海道立総合研究機構	佐藤 正和	常務理事

「北海道環境審査委員会」メンバー表

## 関電子会社元社長、400万円相当の商品券受領 「過去のこと」第三者委に報告せず

関西電力の役員らの金品受領問題で、関電は22日、**子会社「KANSOテクノス**（旧環境総合テクノス）（大阪市）の今井武元社長と元幹部の2人が福井県高浜町の元助役、森山栄治氏（故人）から400万円相当の商品券などを受領していたと発表した。内部通報で判明し、関電が調査していた。受け取った本人や問題を把握していた子会社の役員2人はいずれも関電が設置した第三者委員会に報告していなかった。

関電によると、今井氏は社長在任中の平成15年から24年にかけて、会食後に菓子と一緒に商品券を受け取るなどして400万円相当を受領。元幹部は現金計4万円を受け取った。今井氏は300万円分を商品券などで返却したり、寄付したりするなどし、残り100万円分を後任の中山崇前社長に引き継いでいたという。

今井氏は第三者委の調査の対象外で、中山氏は病気療養を理由に調査に応じていなかった。…（後略）

【産経新聞 2020/7/22 付けより】

## グループ、約200人が国家資格を不正取得原発工事にも関与

関西電力は20日、**グループ全体で社員180人と退職者17人が、国家資格の施工管理技士を不正に取得**していたと発表した。必要な実務経験が不足していた。不正取得者が関わっていた工事は計56件で、うち15件が原発関連の工事だった。



### ・「お互いに尊重しましょう」 関電役員ら電力カルテル主導か

内部告発を受けて昨年7月、子会社の社員6人の不正取得が明らかになり、第三者委員会が調査していた。不正取得はグループ11社に及ぶ。実務経験の年数が足りていると思い込んだり、要件を満たしていると偽ったりして電気工事1級などの試験を受けて合格していた。…（後略） 【朝日新聞 2022/12/20 付けより】



画像出典：https://www.tv-osaka.co.jp/news/

昨秋、**迫俊哉**小樽市長が「総意として、是認することはできない」と、鈴木知事に（株）双日の大規模風車発電計画に、「ノー」を突きつけた電撃会見。直後、双日の中止発表。その切掛けとなったのが、当会学習会でも講演された岡村**聡**北海道

今、世間を騒がしている自民党の裏金問題。実は、その発端となったのが、神戸学院大学の上脇博之教授の地道なる調査報告だった。政治団体の収支報告書を丹念に調べ上げ、6000万円に及ぶ不記載を発見し、刑事告発。そして、付度なき東京地検の徹底的捜査で立件を望んだ。**正に、たった一人の教授の努力が、派閥崩壊、自民の屋台骨までも揺るがす原動力となった。**



迫俊哉小樽市長と岡村聡北海道教育大学名誉教授

教育大学名誉教授らの自らの足で歩いた地道な調査結果だった。あの豊浜トンネル崩落事故と同じ脆弱な地盤と、有害重金属が含有する地質。「土砂崩れがいつ何時でも**起こり得る危険性がある**」と、強く警告を発せられた。それが、今回の仁木町が外された間接的訴えにもなった。

審議委員会においても、多くの大学関係者が居られるのに拘わらず、**何故その周到なる踏査が無いのか、発表が無いのか。国策に追従容認するだけの諮問機関に疑義を呈したい。須らく産学官ともに、襟を正すべき大事ではなからうか。**

## 七、「保安林解除」は隣町の合意が必要

町の将来、住民の安寧を考えるべき首長。

何事も、慎重かつ丁寧に、思慮



# 風の 新の ン



成田昭彦古平町長と配慮書に対する回答書

これにより、既に設置されている「生活クラブ」所有の歌棄地区風車4基に連続させるのは容易である。ブレードや資材運搬、工事車両の通行など好都合にして安

分別して事の決定に至るべきが、重職を付託された長の責であり、任である。

価につく絶好の条件適地はない。かく保安林解除も時の問題と思われた矢先、令和5年3月9日の古平町議会において、真貝政昭議員が、「この狭い古平の行政区域の稜線に沿って、さらに奥深く道路が開拓されて、巨大な風車を建てるために、広域にまたがる保安林の解除が問題」との指摘があった。

変動の急変で、いつ起きてもおかしくない時代に入った。古平川はチョッとした変化で急変する。川の氾濫は漁業にも影響する。また、大量の土砂が掘削される、残土処理の問題もある。トンネル工事で不適土という同じ土。どこに始末されるのか。町民にすれば命と財産に関わる問題がこの保安林の解除によって出てくるのではないかという懸念がある。」と質問した。

事態が急変している昨今、安直なる解除声明により、未代まで迂愚の判断を擲擄され、責を問われぬよう慎まれない。

「古平・仁木・余市ウインドファーム」事業が、未だ公然としない令和4年の8月。北海道鈴木知事に對し、「計画段階環境配慮書に係る意見について(回答)」で、以下「令和4年(2022年)6月2日付け環境第317号で照会のあったことについて、意見なしの旨回答いたします」との一行文の回答をした、成田昭彦古平町長。

さらに、「当丸峠を越えて神恵内に通じる998号線が切り開かれた地滑り地帯。平成22(2010)年にこの地域の奥でゲリラ豪雨があって、古平川が氾濫した。気候

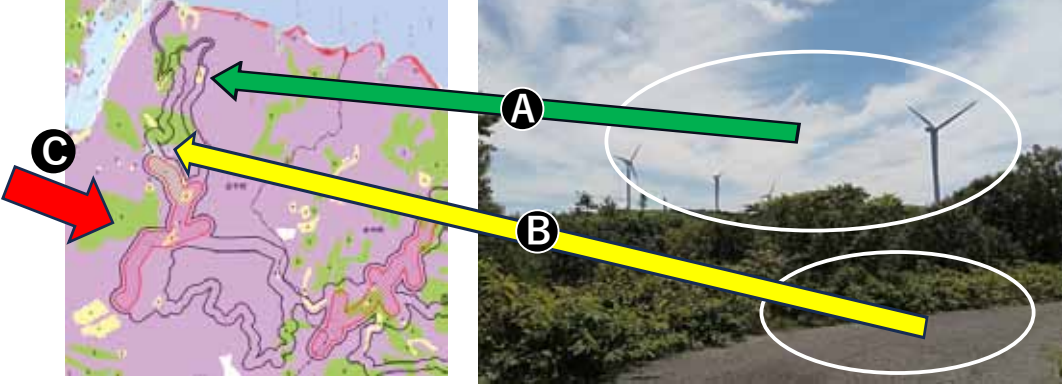
成田昭彦町長は、「まずもって今、関西電力で計画している場所は、保安林を解除しなければならぬ問題がある。それには、今3町にまたがるわけで、その3町長の同意が必要でございます。余市、仁木と一緒に考えながら、どういう形がいいのか、考えていかなければならない。……」と、これに答えた。

事態が急変している昨今、安直なる解除声明により、未代まで迂愚の判断を擲擄され、責を問われぬよう慎まれない。



平成22年古平川氾濫 画像出典：北海道庁HPより

仁木が関電のウインドファーム事業から抜けた今、古平・余市両町長が「保安林解除」をしないことを強く求めたい。



A 緑線：「生活クラブ」所有の現存風車4基。  
B 黄線：山道。ブレードなどの資材を運べる道が既についている。これほど好都合で安上がりな条件はない。  
C 赤線：山道の延長上に今回計画の風車建設予定地。

農林水産大臣 宮下 一郎 様      林野庁長官      青山 豊久 様  
環境大臣    伊藤信太郎 様      地域脱炭素推進審議官 植田 明浩 様  
経済産業大臣 西村 康稔 様      資源エネルギー庁長官 村瀬 佳史 様

令和 5 年 12 月 6 日

仁木町の風力発電を考える会

代表 穂積 豊仁

〒048-2402 余市郡仁木町大江 1-341-44

TEL : 080-1863-1306

余市町の風力発電を考える会

世話人代表 小野 方士

〒046-0013 余市郡余市町豊岡 370-9

TEL : 0135-23-9222

## 1 「古平・余市ウィンドファーム事業」を、許可しないで下さい。

## 2 仁木町南部の計画を、許可しないで下さい。

昨年6月に発表された「古平・仁木・余市ウィンドファーム事業」計画は、今年11月21日に、方法書縦覧と共に、関西電力より仁木を外し「古平・余市ウィンドファーム事業」と改称、最大64基より18基に縮小されました。しかし、ほぼ全域、自然度9、10の国有林・水源涵養保安林で、国内に19.2%しか残っていない極稀少聖域です。縮小したとはいえ、伐採されれば日本の国土から生きた宝が消失してしまうのです。回復は百千年を待たねば不可能であります。

### ●古平・仁木（南部）・余市の保安林を解除しないでください。

先般中止になった小樽・余市ウィンドファーム事業と同じ地盤で脆弱、赤井川のカルデラ外輪山に当たり、岡村道教育大名誉教授を初めとする道内の地質学者は踏査解析して、等しく風車は立てるべきではないとの結論に達し、警告を発しております。1996年の痛ましい豊浜トンネル岩盤崩落事故と同質の山々。道内のハザードマップに色濃く、数多くの印が刻まれ、指定されております。

再びと申し上げます。

## 1 「古平・余市ウィンドファーム事業」を、許可しないで下さい。

## 2 仁木町南部の計画を、許可しないで下さい。

12月5日現在、**17,916筆**の反対署名をここに提出いたします。

### 風の祈り—第17章

2024年1月6日発行  
発行所：株式会社まほろば

NATURAL & ORGANIC  
自然食の店 まほろば

札幌市西区西野5条3丁目1-1  
TEL:011-665-6624 FAX:011-665-6689  
www.mahoroba-jp.net



各省庁・大臣に、個別に提出した内容を、まとめて簡潔に構成し直した書面です。

仁木町の風力発電を考える会

仁木町大江1-341-44 代表 穂積豊仁

TEL: 080-1863-1306

【仁木風 HP】 <https://niki-wind.main.jp/>

